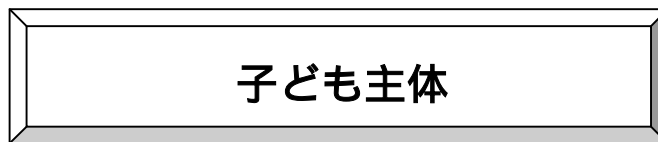


子ども計画（第 2 期）後期計画 第 2 章 計画の基本的考え方

1. 目指すべき姿

「子どもがいきいきわくわく育つまち」

2. 計画の基本コンセプト



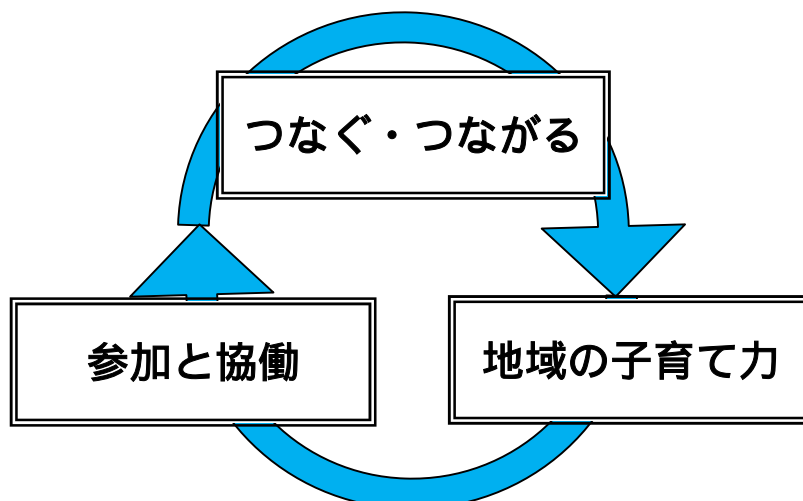
目指すべき姿である「子どもがいきいきわくわく育つまち」は、子ども一人ひとりの視点にたった時、子どもが「楽しい」と思って「元気に」日々を過ごすことのできる状況であり、「子どもの権利」が守られる環境であることと表すことができる。

子どもが健やかに育ち、成長していくため、遊び、表現し、安らぐための場が身近にあり、人間性を豊かにするための多様な体験や様々なことにチャレンジできる機会が確保されなくてはならない。

そして、すべての子どもが虐待やいじめ、また、障害の有無や家庭の経済状況などによって、守られるべき権利が阻害されることなく、安心して楽しく元気に過ごすことのできる環境が、子どもや子育て家庭に最も身近な地域の中で具体化される必要があり、そのためには、予防的な取組みを推進していくことが重要である。

区は、本計画の策定にあたり、重点政策や施策・取組みが「子ども主体」で組み立てられているか、子どもが豊かに成長していく支えとなるもののか、という視点を軸として検討を進めることとする。

さらに、各種施策を「子ども主体」で組み立てる際には、これを具体化していく手段として、次の 3 つの視点を持って検討を進めていくこととする。



【つなぐ・つながる】

この間、様々展開してきたサービスが、必要とする子どもや子育て家庭に届いていないという課題を受け、子どもが関わる場において、適切な居場所や支援に「つないで」いく人、寄り添って伴走できる人が必要であり、施策を考えるうえでも、誰が「つなぎ」役となるのか、どのような専門性が必要でどのように育てるのかを考えながら検討を進める。

子ども期からの地域での主体的な活動・関わりを通じた育ちを経て、地域に関わりと愛着をもつ子ども・若者を増やし、その子ども・若者がやがて地域の中で大人、親へと成長し、今度は親の立場で地域に支えられながら安心して子育てをし、その子どもがまた地域の中で育つ、という「つながり」を地域の中で生み出していく仕掛けに努める。

また、保護者の立場の中であっても、支援を受けながら親としての育ちを得て子育てを楽しみ、今度は支援の担い手にまわるといふ、地域内で支援が「つながって」継続できる仕組みづくりに努める。

【参加と協働】

子どもが意見を表明する機会の充実に図るとともに声をあげやすい環境づくりに努め、子ども自身の主体的な「参加」や参画のもと、様々な施策・事業において子どもの声を尊重し、反映していく仕組みをつくる。

また、区民、子育て支援者、事業者などと「協働」して、地域の中で子どもが健やかに育ち、保護者が安心して子育てを楽しむことができる地域社会の形成に努める。

さらに、子どもが関わるあらゆる場において子どもの権利が守られるよう、地域にとって協働相手となる区が果たすべき役割を明確に位置づける。

【地域の子育て力】

子どもが「楽しい」と思って「元気に」日々を過ごすためには、子どもに最も身近な地域の中で、周りの大人や若者、さらには子どもに見守られ、励まされ、支えられながら、やりたいことに挑戦し、持っている力を発揮できる環境が必要である。こうした環境の創出には、地域の子どもや地域の子育てを気にかけて、応援する人を増やし、「地域の子育て力」を高めていくことが重要である。

そのために、地域の人が地域の子どもに関心とあたたかいまなざしを持って見守り、一緒に育てるといった意識・機運を醸成するとともに、地域の子どもや子育てを応援したいと思う人が思いきり役割を果たせるような仕掛けづくりに努める。